

令和5年度全建賞 推 薦 調 書  
**インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)**

ふりがな	おおふなとこうふがねちくぼうちようていせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	大船渡港普金地区防潮堤整備事業
2. 事業(施策)実施期間	平成 25 年度～令和5年度
3. 事業費(工事費)	約 8,000 百万円
4. キーワード	狭小な施工ヤード、工場車両及び一般車両の通行確保、大船渡湾津波防護機能発現
5. 事業概要	東日本大震災で甚大な被害を受けた普金地区について、延長約 0.6 kmの津波防御対策(T.P+7.5m 防潮堤・陸閘等)を実施した。狭小な施工ヤードなどの厳しい現場条件の中、隣接するセメント工場への車両の出入りや一般交通への影響を最小限に抑え、工事を完工させた。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)24時間稼働の隣接の工場の運営を確保するため、工場側と綿密な調整のうえ、工場出入口となる陸閘分割施工や夜間施工を行った。 (b) 道路と工場敷地に挟まれた狭小な施工ヤードに加え、上空占有物件により通常施工が難しい現場であったが、構造の見直しや施工方法の工夫を行うことで対応。 (c)防潮堤の施工に伴い、交通量の多い市道を最大 1.2m 嵩上げする必要があったが、一般交通を確保しながら、わずか9日間の夜間急速施工で実施。	( ) ( ) ( ) ( )
アピールする 2)「秀でた成果」	(d)24時間稼働の隣接する工場への車両の通行を最大限確保しながら工事を進めた。 (e)隣接する工場と交通量の多い県道、市道に挟まれた極めて狭小な施工ヤードであったが、極力対面交通を確保する施工方法としたほか、市道嵩上は夜間の急速施工を行うなど、一般交通への影響を必要最小限に抑えた。 (f)本地区は大船渡湾で最後まで残った現場であったが、完工に至り、大船渡湾全体の津波防護機能の発現に至った。	( ) ( ) ( ) ( )

7. 特にアピールしたい点 上述のとおり、工場と交通量の多い県道・市道に挟まれた極めて狭小な現場であり、また、上空占有物件や地下占有物件も複数あり、加えて、24 時間稼働の隣接する工場への車両の出入りを確保しながら工事を行う必要があるなど、本地区は大船渡湾の防潮堤事業の中で最も施工が難しい現場となっていた。 そういった状況の中、工場関係者をはじめとした関係者との綿密な調整のうえ、防潮堤の構造の見直しや施工方法の工夫などを行い、工事を完成させ、大船渡湾全体の津波防護機能の発現に至ったものである。
---

8. 事業を代表する写真及びキャプション



大船渡市



位置図



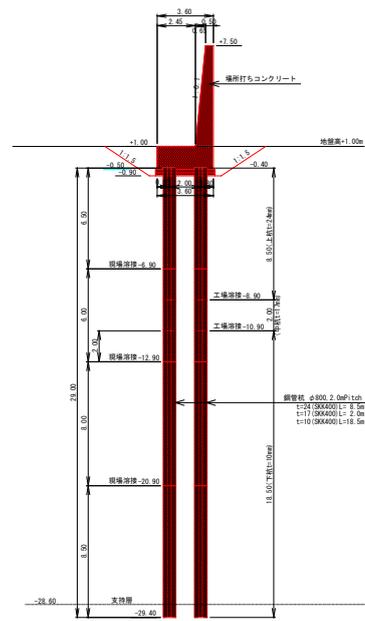
整備前(被災時・終点側)



完成後(起点側)



平面図



防潮堤断面図

9. 事業内容・添付資料



工場車両の通行を確保するため、陸閘の分割施工を行った



陸閘扉体の架設は工場車両の出入りが少なくなる深夜に行った



高圧線直下の防潮堤は、現場打と門型クレーン架設によるプレキャスト防潮堤への組み合わせの工法を採用した



上空占用物件下の杭打設状況。特殊な機械による慎重工事が求められた



老朽化のため移設不可の工場施設を避ける工法に変更。ミリ単位の精度が求められ、極めて困難な施工となった



交通量の多い市道を最大1.2m嵩上げる必要があったが、一般交通を確保しながら、わずか9日間の夜間急速施工で完了させた